

2 3 6

こんにちは。塾長の大井です。

6期生受験戦記第21回です。

「人はみんな非力だ。人がひとりで成し遂げられることには限りがある。けどな、人が心を合わせると強い。本当に強い。君たちはそれをメダル授与式でも感じたはずだ。先生たちは寝ても覚めても君たちの合格を願い、そのためにできる全てをやってきた。俺たち2人とお前たちみんな、全員で一つのチームだ。それをこれ以上感じられる塾はないと思う。」

Sさんはその時点でもう泣いていました。

「そんなお前たちが勝てないと思うか？報われないと思うか？」

そう問いかけるとGくんもMさんも涙していました。驚いたことに、一番遅くにTOPに入ったS Jくんまでも泣いていました。

「何代も先輩から想いを受け継いで、覚悟を受け継いでお前たちの番が来た。明日はそれが報われる日だ。」

そして全員に言葉をかけていきました。

1 人目は 1 月に見事淑徳与野で金星を挙げた、愚直な努力家 M さんでした。

「M、淑与野合格嬉しかったな。先生もメチャクチャ嬉しかった。Mがどんなに不器用で、それでもどんなにまっすぐがんばってきたか、よく知ってるから。それでもそこからは一切褒めなかった。満足してほしくなかった。先生は M が一番行きたい学校でもう一度Mと喜びたい。」
人一倍感受性が強く、授業でも何度も感泣していた M さんの顔はもう涙でぐしゃぐしゃでした。

2 人目は SJ くんでした。ずっとマイペースが変わらず、ずっとゆっくり歩んできました。

「先生が嫌いなのは負けることだ。先生も田宮先生も昔から負けるのが本当に嫌いだ。中でも一番嫌いなのが、自分に負けることだ。SJのお母さんは、『昔から逃げてばかりだったあの子が、TOPに入って負けばっかりの子じゃなくなった』って喜んでた。まだまだマイペースだけど、ずいぶん変わったじゃないか。明日はできない解けないって、途中で合格したい気持ちを折り畳むな。明日弱い自分に克ったら必ず勝て

る。巢鴨に勝てる。」

3人目、小5の終盤に転塾したYMくんへ。

「あの合否が決まると言った年末年始の5日間、みんなが必死にやる中、大事な課題を丸投げした。あれは絶対にあり得なかった。それでもその後がんばったな。メダル授与式も絶対全員でやるんだって奮い立った。最後に感動だけじゃなく、行動の男になれたんじゃないか。TOPで変わったこと、それを都市大の答案で見せてこい。取れるよ、YM。」

(第22回につづく)

2021年10月25日

大井 雄之